

【様式1】 令和3年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	恵那市	学校名	恵那市立恵那北中学校		
校長名	篠原 徹	対象学年	全校	人数	82人
項目 <small>該当する項目に ○をつける</small>		① 小・中学校の関連性や発展性を踏まえた実践や、幼保園、高等学校、特別支援学校等と連携を図った実践			
	○	② 県内施設や地域人材等の外部資源を活用し、岐阜県が誇る自然・歴史・文化・産業等の体験を通して学ぶ取組を効果的に位置付けた実践			
	○	③ ふるさと学習を核として、総合的な学習の時間と各教科、特別の教科道徳等との関連を図った教育課程を編成し取り組んだ実践			
学校の教育目標	求めて学び 鍛え合う				
活動のねらい	地域のよさや抱える課題について、地域を支える人とのつながりを大切にした探究的な活動を通して学ぶとともに、地域への発信・貢献活動を通して、主体的に地域とつながり、故郷を愛する生徒を育てる。				
<b>活動の特色・児童生徒の変容など</b> <b>【活動の特色】</b> ① 笠周三町（笠置町・中野方町・飯地町）の地域組織や人材と連携したふるさと学習 笠周三町には、豊かな自然と地域の活動を力強く支える人々によって守られている伝統やまちづくりがある。そうした自然や地域の人と郷土の魅力を体験する活動を行うことで、ふるさとのよさを実感し、郷土愛を育む取組。 ② 総合的な学習を核とした地域貢献活動 総合的な学習での探求的な学習を通して、各教科での学びを生かし、生徒自らが地域のよさや課題を見だし、地域が抱える課題の解決に向けて地域に貢献する活動を行うことで、地域で暮らす一人として地域社会に役立つとする生徒を育てる取組。					
<b>【活動の概要】</b> 1年生 ・笠周三町の特産品について学習し、主たる特産物である恵那栗や柚子の収穫・選別作業を体験した。 →地元のゆず生産組合やえな笠置山栗園の方々の生産の苦労や出荷の喜びを実感することができた。 ・市内最高峰・笠置山山頂にある「望郷の森」において、個人用テントを使ったキャンプ、火おこしから始めるアウトドアクッキング、ボルダリング・クライミングなど地元の観光資源を生かした活動を体験した。望郷の森を運営するマネージャー・平林悠基さんやボルダリング指導・登山家の成瀬洋平さんの生き方に学び、地域に貢献する生き方を考えることができた。 →全国からクライマーが集う「笠置山ボルダリングエリア」や近年人気の高まりに呼応して開発中の「望郷の森キャンプサイト」について、観光資源としての価値の高さを体験することができた。					
2年生 ・恵那市にある「リコーえなの森」において、藪や下枝を伐採して散策道を切り拓く作業を行った。岐阜県緑化推進委員会や「リコーえなの森」中山道里山協議会の方々のご指導・ご援助を受け、森林保全についての知識を授かりながら、森の中に「北中の森」を設け、今後、本校生徒がこの区画の保全・整備作業に携わっていく礎を築いた。これらの作業を通して、森林を整備し守っていくことの大切さを学んだ。 →山間部の地域とはいえ、平成生まれの生徒にとっては、のこぎりを使って木を切ったり、スコップや鍬を使って土木的な作業をしたりする機会はあまりない。森林作業などの実体験は生徒にとって新鮮であり、意欲的に取り組み、全員で協力して森の散策道づくりを行うことができた。					

- ・3町の地域振興事務所および地元のNPO法人「まめでくらそまい会」をはじめとする各生産業者と会議をもって町おこしの方針や地元の特産品の良さを学び、それをアピールするための即売会を計画した。特産品の仕入れ計画づくりや販売価格の設定、販促用POPやチラシ製作などの準備を進め、授業参観日に販売会場を設営し、実際に販売することを計画している。  
→特産品販売は1月の予定だったが、新型コロナウイルス感染予防のため直前になって中止決定。

### 3年生

- ・中野方町・笠置町・飯地町の3町住民の親和・和睦は生徒達共通の願いであり、生徒達は出身町にこだわりなく、互いの家を行き来して交流を深めている。そこで、3町を校区にもつ中学校として、これまでは各町で独自に作成されていた行事カレンダーを統一し、笠周3町のすべての行事を位置づけたカレンダー作りを計画した。各町の特色をよく表現している写真やイラストでカレンダーをデザインし、3町の地域振興事務所と共同で3町全戸に配付する計画を進めている。  
→「令和4年度笠周3町カレンダー」は、1月以降に完成、年度末までに全戸に配付の予定。

### 全校

- ・恵那市が水上競技推進・誘致のために笠置峡にて開発を進めている「えなアクアティックススポーツバレー」(ボート・カヌー乗船場)が本校に隣接していることから、これを利用して全校生徒がカヌー乗船体験を行った。「笠周3町青少年育成町民会議」の主催とし、地元のカヌークラブを運営する「いいなかクラブ」から指導者と機材を提供していただくなどの支援を受け、笠周地域固有の資源を体験した。  
→全校生徒がカヌーに乗って水上から笠置峡の景勝を堪能した。手軽な装備で自由自在に水面を動き回れるカヌー操船の面白さも体験できた。また、普段生活している学校の目の前に、全国に誇れる優れた施設があることを知り、ふるさとへの誇りをもつことにもつながった。
- ・東京オリンピック2020に参加したポーランドのカヌーチームが、「えなアクアティックススポーツバレー」を利用して事前キャンプを行ったことを機に、ポーランドチームの練習を全校で応援に行ったり、ホストの一員としてポーランド選手と交流を通し、地域や学校の良さを伝えたりした。  
→一生に何度もない国内での五輪に興味をもち、カヌーやボートなど馴染みのない水上競技や国内外の選手に興味をもつよい機会となった。自分にとってのふるさとという見方に加え、外国も含め、誰にとっても自分の国やふるさとがあり、それぞれが誇りに思い尊重することの大切さを学ぶことができた。

### 【児童生徒の変容】

コロナ禍の中で早2年、もうすぐ3年目を迎えようとする中、地域行事も中止となる状況が続き、生徒にとっては地域の様子や行事・伝統などを知る機会が減り、地域とのつながりも薄れがちになってきている。そんな中、限られた条件の中ではあるものの、学校での総合的な学習や学校行事などを通してのふるさと学習で、生徒は生き生きと活動に取り組んだり、積極的に活動に参加しようとしたりする姿が見られた。

例えば、夏休み期間中に、中野方町振興事務所主催で行われた「笠置山・望郷の森 小学生キャンププロジェクト」では、プロジェクト計画段階から15名以上の中学生ボランティアが参画し、当日は小学生に付き添って宿泊し、キャンプ運営に力を発揮した。また、「中野方ふるさと資料館・石器土器遺跡整理作業」や「恵那北小・福祉施設ボランティア」にもそれぞれ20名近い中学生ボランティアが参加し、地域に貢献しようと奮闘する姿が見られた。そのような様子から、地域についての生徒の知識は深まり、また興味・関心を育むことができたと思われる。

行事に対するボランティア活動などの機会は減っているものの、地域への貢献や、行事への参加意欲は決して薄らいではないと感じている。むしろ、そうした場が激減している分、生徒のボランティア活動や行事参加に対する意欲は高まっているのではないかと考える。

笠置町の「ゆず祭り」など地域行事等が再開した際には、自分が生まれ育った地域に貢献したいという使命感をもち、これまで以上に積極的にかかわろうとする姿が、地元の多くの方々から期待されている。そのためにも、地域の人々に密着したふるさと学習を大切にしていこうとする方針である。コロナ禍での制限はあるものの、できることを工夫しながら行っていくことで、今後も主体的にふるさとに関わり、大切に思う生徒を育てていきたい。